

学校における運動部活動の批判的検討 ～指導者と運動部活動のあり方から～
A critical study on sport club in school
～ especially in the ideal relationship between teacher/coach and sport club～

1K03B144-8 野坂綾美

指導教員 主査 友添秀則 先生 副査 吉永武史 先生

<研究動機及び目的>

学校における運動部活動（以下、「部活動」と略す）とは、部に所属する生徒全員を対象として、ある一定の教育的意図のもとに作られた特別活動である。しかし、部活動のあり方をめぐっては、2002年度には学校完全週5日制が実施され、これまで以上に部活動の意義や価値が問われようとしている。

部活動をめぐむ問題は、勝利至上主義による部活動の過熱傾向、指導者による生徒への体罰問題、部活動強制参加による拘束性の問題など多岐にわたる。

筆者の高校時代の顧問教員（以下、「顧問」と略す）は神であり、顧問の言うことは絶対で、反論したり、言ったことができなかったら顔を殴られた。試合に負けようものならば、次の日の練習は体育館で3時間もの正座をさせられた。私はこのような顧問の下、「これでいいのか」と疑問を持ちながらも3年間部活動を続けた。今考えると、当時の部活動は軍隊活動であった。

大学に進学し、高校とは一変した環境で教員を目指して学んでいくうちに、部活動や指導者のあり方について深く考えるようになった。指導者の勝利至上主義による部活動の過熱化、生徒の燃え尽き症候群など、部活動によって様々な問題が引き起こされているのが部活動の現状である。学校教育の一環として生徒のために行われているはずの部活動で、このような問題が引き起こされていることは許されることであろうかと疑問を抱き、考察したいと考えた。

本研究の目的は以下の2点である。

- ① 部活動での問題解決のための提言をする
- ② 本来の部活動のあるべき姿を明らかにする

<研究方法>

本研究は、本研究に関連する文献の講読によって行う。

第1章では、現在置かれている部活動の位置づけ及び意義と教師の立場を教育的視点からまとめる。

第2章では、部活動の現状や問題点をインターネット（文部科学省の調査データ）や過去の新聞を基に考察する。

第3章では、第2章での問題点を解決すべく、提言を行う。

<各章の概要>

・第1章 学校教育と部活動

学習指導要領や文部科学省の「運動部活動の在り方に関する調査研究報告」（1997）で明記されている部活動の意義と位置づけについて述べる。また、教育の一環とされている部活動だが、そもそも「教育」の意図するものは何であるか記す。そして、教師とコーチの役割の違いについて述べ、部活動での顧問のあり方を考察する。

・第2章 部活動の現状

部活動の過熱化から引き起こされる、指導者の勝利至上主義や体罰問題を取り上げ、指導者の行き過ぎた指導が与える生徒への影響について述べる。また、指導者の徹底された管理化の基で活動していた生徒は、いざ部活動から解放されるとひとりでは何もできない人間になってしまうという現実もある。この他にも、部活動での外部指導者が引き起こす問題などが現状としてあげられる。

・第3章 問題への提言

第3章で抽出された問題点（特に指導者の指導方法のあり方）について、問題解決に向けた提言を行う。第1節では、学校教育の一環である部活動において、指導者はどのようにあるべきかを具体的に述べ、第2節では、これから育てるべき部活動のイメージについて具体的に提案する。

・結章

第1節では、指導者は学校教育の一環である部活動を通して生徒一人ひとりを尊重し、生徒の生活が充実したものになるようにする必要があるということ述べる。第2節では、今後の課題として、「学校の部活動の目的や意義を法律上に明確化すること」や「指導者養成制度を設置し、部活動に対しての共通理解を指導者に持たせ、専門的な知識を持った指導者が学校の部活動を指導することの必要性」について述べ、学校教育の一環としての一貫した部活動指導の展望について述べる。